

シーズのテーマ:ダイナミック・ケイパビリティの形成プロセス研究

【研究者】

氏名: 榎谷 正人(まきたに まさと)
 学部: 経営学部
 学科: 経営学科
 職階: 教授
 連絡先: ※下段、お問合わせ先をご参照ください。



【研究の概要】

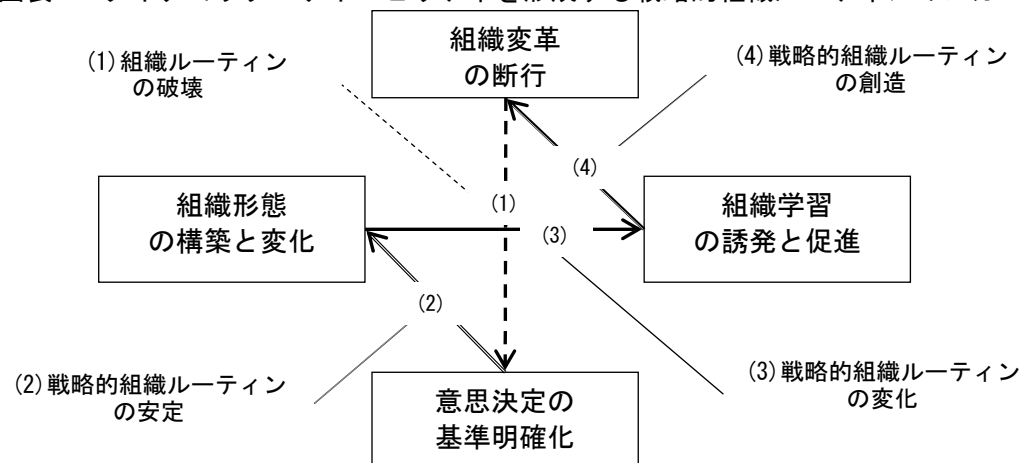
【研究目的】 組織変革の新たな領域を切り拓くことと、経営実務で再現可能な実践的メソッドを提示すること。

【研究方法】 日本を代表する大企業を対象に、組織変革における阻害・促進要因を戦略の実行プロセスを実証的に解明する。具体的には、企業の持続性の内生要因を明確にし、ダイナミック・ケイパビリティを構成する組織ルーティンのメカニズムを分析する。

【仮説検証】 競争優位となる戦略的組織ルーティンの 4 要因のメカニズム提示(組織変革の断行、組織形態の構築と変化、意思決定の基準明確化、組織学習の誘発と促進)し、ダイナミック・ケイパビリティの形成プロセス(図表1)の実証的解明。

【予測成果】 組織変革期の経営理念の機能化プロセスを提示することで、企業の合理的な側面と人間の非合理的な側面を統合するマネジメント機能が明確になる。

図表1: ダイナミック・ケイパビリティを形成する戦略的組織ルーティンのメカニズム



【研究の特長・従来技術との比較】

1. 企業の競争優位の組織能力について、経営戦略、経営組織、経営管理に至る連動プロセスとして考察。
2. 戦略と組織の境界拡大、組織間関係能力の構築、組織メンバー間の相互作用と組織学習に重点。
3. ダイナミック・ケイパビリティの実証的解明により、経営実務における組織変革の理論と実践を提示。

【研究の状況】



【課題、今後の方向性】

1. 理論モデルの反証による精緻化
2. 理論モデルを活用したコンサルティング

【用途・効果】

1. 組織変革におけるトップ・マネジメント能力の養成
2. ミドルマネジャーの役割行動に係わる教育研修
3. 組織学習を促進する組織形態の設計コンサルティング
4. リスクマネジメント体制整備に係わるコンサルティング

【関連資料・特許・文献・参考事項】

1. Teece, D.J.(2007)Explicating Dynamic Capabilities:The Nature and Microfoundations of (Sustainable) Enterprise Performance. *Strategic Management Journal*, Vol.28, Issue 13, pp.1319-1350. (渡部直樹編著・デビット・J・ティースほか著『ケイパビリティの組織論・戦略論』中央経済社)
2. Teece, D.J.(2009)*Dynamic Capabilities and Strategic Management: Organizing for Innovation and Growth*. Oxford Univ PR.
 榎谷正人(2012)『経営理念の機能—組織ルーティンが成長を持続させる』中央経済社。

お問合わせ先

摂南大学 研究支援センター

〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8
 TEL:072-800-1160 FAX:072-800-1161
 E-mail: SETSUNAN.Kenkyu@josho.ac.jp
<http://www.setsunan.ac.jp/kenkyu/shien/>